

## 現代美術のハードコアはじつは世界の宝である展

ヤゲオ財団コレクションより

2014年12月20日(土)～2015年3月8日(日)

### 「世界の宝」現代美術のハードコア（中核）作品が一堂に介する展覧会

ヤゲオ財団（台湾）の現代美術コレクションは、欧米（西洋）とアジア（東洋）、両洋のアートを中核にしている点が特徴です。所蔵する作品の選定は、財団のCEOを務めるチェン氏自身が行い、「living with art（アートとともに暮らす）」「art is accessible（アートは近づきやすいもの）」というコンセプトの下、自宅やオフィスに作品を展示し、アートに密接した生活を送っています。

本展覧会は、ヤゲオ財団（台湾）が所蔵する傑出した作品の中から選び抜いた、39名の現代アーティストによる約75点を10章に分けて構成して紹介し、現代美術の「ハードコア（中核）」ともいえる作品は、私たちが考えている以上に「世界の宝」であるということを確認しようとするものです。

作品価格が紙面を賑わすことがあるように、現代美術の作品が経済的な側面において価値をもっていることは紛れもない事実ですが、展覧会という実際に作品が展示される場での体験をとおして、感性的な面や美術史的な面でも現代美術が「世界の宝」であることを改めて感じ取っていただけるでしょう。

#### ●ヤゲオ財団とは

台湾資本の大手電子部品メーカー、ヤゲオ・コーポレーションのCEOであるピエール・チェン氏によって設立された財団。

チェン氏は学生時代からプログラミングのアルバイトをして貯めたお金で作品を購入するほどのアートファンであり、ヤゲオ財団コレクションはわずか一代で築きあげたもの。その現代美術コレクションは世界トップクラスと評されています。

#### ●出品作家

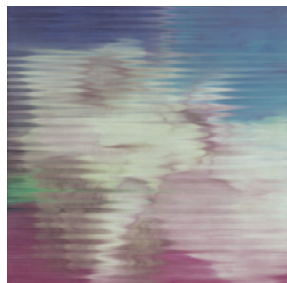
【ミュージズ】マン・レイ 【ポップ・アート】ロイ・リキテンスタイン、ジョン・チェンバレン、アンディ・ウォーホル  
【サンユウ】サンユウ 【中国の近現代美術】ユン・ジー/ジュ・ユアンジー、チェン・チェンポー、グォ・ポーチュアン、リャオ・ジーチュン、ホアン・ミンチャン、スー・ウォンシェン、ポール・チアン、ヤン・ジエチャン、リウ・ウェイ  
【威厳】ザオ・ウーキー 【崇高】マーク・ロスコ、杉本博司、ゲルハルト・リヒター 【新しい美】ティエブ・メータ、マウリツィオ・カテラン、ツェ・スーメイ、ホセ＝マリア・カーノ、マーク・クイン、ジョン・カリン、リー・ミンウェイ 【実存的状況】フランシス・ベーコン、デイヴィッド・ホックニー、ウィレム・デ・クーニング、マーク・タンジー、マルレーネ・デュマス、ピーター・ドイグ、セシリー・ブラウン、ロン・ミュエク  
【リアリティ】トーマス・シュトゥルツ、アンドレアス・グルスキー 【記憶】サイ・トゥオンブリー、ゲオルク・バゼリッツ、アンゼラム・キーファー、ツァイ・グオチャン

### 開催概要

【会期】	2014年12月20日(土)～2015年3月8日(日)
【開館時間】	10:00～17:00 ※入場は閉館30分前まで
【休館日】	月曜日(ただし1月12日は開館)、12月27日(土)～1月1日(木)、1月13日(火)
【観覧料】	一般1,030(820)円、大学生720(620)円、高校生および65歳以上510(410)円、中学生以下無料 ※( )内は前売りおよび30人以上の団体料金
【主催】	広島市現代美術館、中国新聞社、東京国立近代美術館、ヤゲオ財団(台湾)
【後援】	広島県、広島市教育委員会、広島エフエム放送、尾道エフエム放送
【協力】	全日本空輸株式会社、ヤマトロジスティクス株式会社



マーク・クイン  
《ミニチュアのヴィーナス》2008  
© Marc Quinn



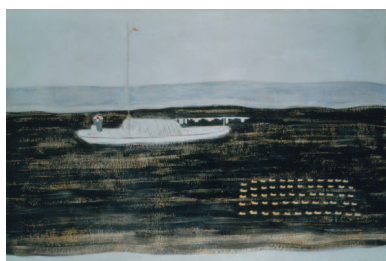
ゲルハルト・リヒター  
《横たわる裸体》1967  
© Gerhard Richter, 2014



トーマス・シュトゥールト  
《ノートル・ダム、パリ 2000》2000  
© Thomas Struth



マウリツィオ・カテラン  
《無題》1996  
© Maurizio Cattelan



サンユウ (常玉)  
《アヒルとポート》1930



グオ・ボーチュアン (郭柏川)  
《紫禁城》1946  
© Kuo Weimei



アンゼルム・キーファー  
《君の金色の髪マルガレーテ》1979-81  
© Anselm Kiefer



杉本博司  
《最後の晩餐》1999  
© Hiroshi Sugimoto / Courtesy of Gallery Koyanagi

【同時開催】

●コレクション展 2014-III 「白の上の白 一色・背景・余白」  
2014年11月1日(土)～2015年2月8日(日)

【次回開催】

●赤瀬川原平の芸術原論 1960年代から現在まで  
2015年3月21日(土・祝)～5月31日(日)

## 展覧会企画者や作家によるトークからコレクター訪問まで 展覧会をもっと楽しむための関連イベント

### オープニング・レクチャー「コレクターと美術館」

本展覧会企画者、保坂健二郎氏（東京国立近代美術館、主任研究員）を講師に迎え、アートをめぐるコレクターと美術館の関係性を軸に、美術の価値についてお話しいただきます。また、コレクター疑似体験システム「コレクター・チャレンジ」の楽しみ方を伝授いただきます。

2014年12月21日（土）14:00～16:00

会場／地下1階ミュージアムスタジオ

定員／100名

※要展覧会チケット（半券可）、事前申込不要

### スペシャル・レクチャー「収集家としての杉本博司」

作品をつくるアーティストの中にも、なにかを収集することに虜になった「コレクター」がいます。収集家としても知られる杉本博司氏を迎え、収集の対象や楽しみ、意義などをお話しいただきます。

2015年2月15日（日）15:00～16:30

会場／地下1階ミュージアムスタジオ

定員／120名

※要本展チケット（半券可）

※当日10:00より受付にて整理券を配布いたします

### コレクター訪問「ヒロセコレクション」

広島市内で自身のコレクションを紹介するためのスペースを開設しているコレクター、広瀬脩二氏を訪問し、直接お話を聞きながら、作品鑑賞を楽しみます。

●第1回：ハンネ・ダルボーフェン展

2015年1月10日（土）14:00～15:00

●第2回：グループ展

2015年2月22日（日）14:00～15:00

会場／ヒロセコレクション（広島市中区千田町3-9-10）

定員／20名 ※要事前申込、申込多数の場合は抽選

参加費／500円（他、交通費自己負担）、現地集合・解散

●応募方法／参加希望の回、氏名（参加者全員、1通につき2名まで）、年齢、代表者の住所、電話番号を明記の上、当館ウェブサイト上の応募フォーム、または官製はがきで下記応募先までご応募ください。

[応募先（官製はがき）]

〒732-0815 広島市南区比治山公園1-1

広島市現代美術館「コレクター訪問」係

※1通につき2名まで申込可。

※2回とも応募する場合は1通ではなく各回についてお申込ください。

※申込多数の場合は抽選し、当選者のみにご連絡します。

※申込締切：第1回12月25日、第2回2月8日必着

### 学芸員によるギャラリートーク & 「コレクター・チャレンジ」

難しい、よくわからない、と思われがちな現代美術。そんな方にお勧めのギャラリートークです。担当学芸員が展覧会をわかりやすく解説します。



いつもと少し違う視点で展覧会を楽しみながら、現代美術を身近に感じるプログラムです。トーク終了後にコレクター疑似体験システム「コレクターズ・チャレンジ」を体験いただけます。

2014年12月20日（土）、2015年2月14日（土）

14:00～15:00

※要展覧会チケット、事前申込不要

### ●コレクター・チャレンジ

本展覧会から選んだ17点の作品と家の模型が置いてあり、作品を複数選ぶと（上限5点）作品の合計金額が算出されるゲーム。作品の価格と価値の関係を問うと同時に、コレクターの気分で「アートとともに生活すること」を疑似体験し、お楽しみいただけます。（※体験できる日は限定されているのでご確認ください）

広島市現代美術館（学芸担当：角 広報担当：後藤、鈴木）

〒732-0815 広島県広島市南区比治山公園1-1

TEL/ 082-264-1121（代表）・082-264-1146（学芸直通） FAX/ 082-264-1198

E-MAIL/ hcmca@hcmca.cf.city.hiroshima.jp

WEB/ <http://www.hiroshima-moca.jp/>